

第9回「戦争と医の倫理」の検証を進める会・世話人会報告

- ◇日時 2011年1月23日(日)11時~17時40分
◇場所 東京保険医協会 セミナールーム
◇参加者 西山勝夫代表世話人、蒔昭三、小島莊明、肥田泰、光石忠敬、吉中丈志各常任世話人、岡田朝志、刈田啓史郎、川嶋みどり、小松美彦、末永恵子、田中智彦、松村高夫、村林彰各世話人
(事務局)相場康文、木村徳秀、杉浦秀明、室井正、小林耕治各氏

◇議長 西山代表世話人

◇報告・協議事項

1. 前回会議報告の確認について

第8回世話人会(10.12.19)会議報告は、提案通り了承。

2. 当会独自企画案の具体化について

(1) 検討資料の概要、これまでの討論等の主な経過、4月までの主な会議日程等の説明(室井)

①検討資料として配布したのは、事前配布の「パネル展示(検討案)」(目次案、パネル展示案 各別冊配布)、及び、当日配布の「C班のパネル展示案の追加」(目次案・パネル案の追加)であり、パネルの目次は当日配布を参照し、パネル案は事前と当日をあわせて参照のうえ、検討いただきたいとの要請がなされた。

②検討の前提となるこれまでのパネル展示案に対する意見等の主な経過として、

- ・前回世話人会で出された討論の特徴点(第8回世話人会会議報告を参照)
- ・C班責任者の山口常任世話人からの「C班及び全体会議の皆様へ」の文書
- ・西山代表世話人からの「第8回世話人会におけるパネル展示の提案と審議結果について」
- ・同上の西山代表世話人に対する小俣常任世話人からの意見
- ・パネル展示案に対する若田、松村各世話人からの意見

の要点説明が行われた。

③当面の作業推進予定と会議開催日程について説明された(MLで事前発信、会議資料参照)。

特に、本日の世話人会での議論をもとに整理したパネル展示案と国際シンポジウムでの日本からの報告案については、顧問・世話人会構成員にも意見を求めた上で、次回世話人会で検討することも確認した。

以上をふまえて、パネル展示(検討案)の討論を行った。

(2) パネル展示(検討案)の説明と討論の要点について

C班(医療倫理)担当者会議から「パネル展示案の検討は、C班で提案したパネル案から検討を進めてほしい」との要望があり、C班関連のパネル案項目から検討を始めた。

C班のパネル展示案については、最初にC班担当の小松、田中各世話人、光石常任世話人から概要の説明があり、意見交換が行われた。

主な意見の要点は、下記の通り。

- *C班からの提案内容は、当会が歴史検証を通じて進めている趣旨にそぐわない。その特徴点をあげれば、A班(歴史検証)では、731部隊等を「医学犯罪」と規定しているが、C班(医療倫理)では「医の宿命」としている。そもそも「医の宿命」であるならば、731部隊と同根ともなり、なぜ検証する必要があるのか。全体として、医学と医療に対し否定的側面が強く、「医の倫理」として医療担当者に共感を広げることにはならないと思う。ぜひ見直してほしい。
- *多くの医療担当者は、良心的な姿勢で患者と対応しているが、提案内容は「医療は悪」のような印象を受ける。「医療倫理・生命倫理」をいう場合大事なことは、「生命の尊厳」や「医療を受ける患者の権利・人権」を守る視点からスタートして、戦争での医学犯罪を反省し、再び過ちを犯

さないことと関連づけた倫理観を示すことではないか。

- *731部隊関連で中国訪日団と懇談された東大、京大の医学部長は、このような問題に向き合う姿勢を示されていた。医師と患者の関係では、病気を良くしたいとの思いから患者に向き合う医療者が大多数だ。この思いを活かし医学会総会にも反映させ、医師・医学者として検証への方向を示す視点から見ると、パネル案には食い違いを感じる。前回の世話人会で指摘されたA班の歴史検証から現代につなげる課題の「まとめ」をメモしたので参考にしてほしい。
- *臨床医の立場から見ると、常に病状の診断を正しく行い治療したいと、神経を張り詰めて患者と対応している。診断がつかない不確定な段階でも治療に臨まざるを得ないのが現実であると思う。しかし、「医の宿命」と規定されると見方によっては「医学犯罪」とも取られかねず、日本の医学界への呼びかけとして適切かどうか、慎重に検討してほしい。
- *出された意見の要点は、会の趣旨に沿うのか、医療者に暗い影響を広げるのではないか、内容が乱暴ではないか、の3点と受け止めた。検証の目的は現代医療に活かすことであり、医療の否定ではなく暗部を正面から問題提起したことであり、「医の宿命」や「裏面史」もこれまでの医学史研究の実績を背景としている。
- *例えば「見えざる戦時体制の継続」で、広重氏を引用し「戦時体制」からの連続性を指摘しているが、戦時と平時で何が連続なのか不確実な引用であり、他のパネルにも飛躍と思う印象がある。
- *指摘された連続と非連続の関係などは、限られたパネルの表現では、語りつくせない。このため、こういう側面があるとの表現にとどめざるを得ない。また、医療者の方々が医療の現場で「医の使命」に向き合っているのは良くわかる。一方で、医療事故などが起きているのも事実だ。だからこそ、731部隊の再発を防ぐために「医の宿命」にどう向き合うかが大切だと考える。感情論での批判はさけてほしい。
- *731部隊の問題は「医の宿命」ではなく、医師・医学者の倫理の問題だ。しかし、個人の良心に頼るだけでは再発防止にはならない。だからこそ、「医の倫理・生命の倫理」として医療界・医学界全体の規範として検証の教訓をまとめていく必要がある。その場合、医療者だけでなく、生命倫理の専門家にも関わってもらうなかでより良いものにしていく、そのための議論が開始された段階だ。感情論ではない。
- *先端医学の危うさなどから指摘される面も理解はできる。しかし、医療倫理を考える場合、医療を受ける側の権利と、医療者側の良心を発揮できるようにする両面が大切だ。そのためには、これまでの「おまかせ医療」から、医療者と患者の信頼関係の中で今後の医療を築くためにも、731部隊の反省を活かす必要がある。
- *日本医師会の「医の倫理綱領」や各医学会関係の「医の倫理規定」などについて、問題がどこにあるのか、731部隊からの教訓をどう活かすのか、戦前と戦後の到達点と課題などを示してもらえよう期待してきた。そのためにも、A班の歴史検証との関連性が大切だ。
- *進める会が設立された以降、C班の内容をどう考えるか、何回か提起し議論した。そしてC班に内容は任されたと認識している。前回大阪の展示では、医療倫理の枠は認められなかったと聞いたが、東京の展示では、新たな視点が必要との立場でC班が入ったのではないのか。
- *一般の人に近い臨床医の立場からC班のパネル案を読むと、むずかしくてなかなか理解できない。まず、731部隊で起きた事実を示しながら、その異常性を反省し、現代の医療のあり方を考えることにつなげていくことではないか。
- *生命倫理の立場から参加し、これまで論点も出したと思う。しかし、世話人会では議論が行われず先送りされてきた。なぜ議論が行われなかったのかの経過を振り返らず、ここに至って批判的意見が出されることは、議論が1年半前に戻っているのではないか。
- *議論が先送りされてきたといわれたが、「医療倫理」の必要性などその場に応じた議論はしてきた。しかし、C班からの具体的なパネル案が出されない中での議論は抽象的にならざるを得なかった。具体的な提案を早く出すようお願いし、今回やっと出されたので意見が出されている。また、当会の名称を決める過程でも議論が行われ、その結果として「戦争と医の倫理」となった。

当会発足の趣旨は、731部隊での医学犯罪などを二度と起こさないためにも史実の検証から「医療倫理」のあり方をめざすことにある。周辺事態法が制定された中で、医療者が戦争政策への動員をどこまでノーと言えるのかが問われる情勢となっているだけに重要だと思う。

- *医療倫理が医学医療の分野でどう行われてきたのか、731部隊での検証を含めて明らかにされていない。731部隊などへの動員に抵抗した人々を含めて解明されていないのではないかと。
- *議論してきたとの説明には納得いかない。医学犯罪は戦争時だけなのか、現代の医学医療にそのような要素がないのか。C班として期待してきたこととずれがあるのではないかと。今になってこのような議論となる前に、何をやるのか明確にしておくべきだったのではないかと。
- *やっと本質的な議論が始まった。731部隊に関連の展示を医師・医学者がやる意義はどこにあるのか。「こういう事実があった」ととどまらず、現在の先端医学などとの関係をどう見ているのか知りたい、との期待は大きいと思う。731部隊のようなことが平時でも起こりうる危険性を秘めているのではとの疑問が国民にはあると思う。ただし、統一した展示にするには、「確信をもってこう言える」との合意が必要だ。
- *これまでの議論は対立ではない。C班の内容は、医学医療に潜んでいる危うさを検証しようとしたもので、731部隊の根源にも通じる。A班での検証と合わせて、現代でも起こりえる問題を押さえることは大切と思うが、展示となると、限られた範囲でどう訴えるのか工夫する必要がある。
- *C班の提起は、医療者としてどう受け止めるか新鮮な検討課題だと思う。医療者として考える中身ではあるが、一般の人に説明する場合は、どう出していくか工夫が必要だ。
- *「医の原点」など、パネル案は理念的過ぎると思う。理念を提示したら正しくなる、とは必ずしもならない。現段階では、ディスカッションの課題として検討するのは良いが、このまま展示するのには無理があるのではないかと。
- *731部隊の行為は、人体実験だとの見方があるが、本質は殺人である。いかに人を殺すか、そのための殺人兵器を開発するのが主目的であることを明確にする必要がある。
- *殺人だと断定するのは、言い過ぎではないかと。人体実験をやりたかったという医学的動機があり、結果として殺害に至ったのではないかと。
- *「医の宿命」などのパネル案の提起については、評価やA班との関連性など意見が合わない状況の中で、今後の作業をどう進めていくのか。
- *展示の準備については期限があるので、世話人会の中で合意が難しい場合は、展示としては見送らざるを得ない。時期的に必要なときは、代表世話人と事務局長で最終判断させていただく。
- *C班の内容を押し通すものではないが、C班のパネル案は、そもそも「医の原理」から全体を構成し問題提起しているのだから、部分的な修正は難しい。生命倫理学の立場から現代の課題につないでほしいとの要請で参加させていただいたが、意見の相違が大きいこともあり世話人を辞退させていただきたい。
- *学説的な根拠をもとに提案しており、共通の土台があればよいが、印象批評での議論は難しい。同様に世話人を辞退したい。パネル案の部分的な使用では、間違った形で伝わる可能性もあり、私たちの作成したパネル案は使用しないしてほしい。
- *意見を述べたら印象批判で議論の余地はないというなら、ディスカッションの意味はなくなる。立場や見方がいろいろあるからこそ、議論を深めて合意をひろげることが大切ではないかと。また、パネル展示で伝えたいことが見た人に伝わるよう、中学生程度でも理解できるくらいに平易な表現への努力が必要ではないかと。

以上の討論を経て、小松、田中両世話人から世話人を辞退する、作成したパネル案を使用しないようにという旨が表明され、世話人会を退席された。その後の討論では、顧問・世話人会構成員へのパネル案の検討依頼に際しては、C班のパネル案は検討中として取り扱うこととした。また、川嶋世話人より、「意見を述べた責任もあり、C班のパネル案に協力するため私案を出してもよい」との意向が示され、協力をお願いした。C班以外のパネル案についても若干の意見があり、それらを反映・整理したうえで検討依頼を行うこととした。

3. パネル展示（検討案）以外の作業報告や課題などについて

(1) A班（歴史検証）関連

- ①医学教育に関するドイツと中国への調査について
 - *ドイツへの依頼状と送付先大学一覧が報告された。
 - *中国への依頼状は、金成民氏を通じ実施した旨報告された。
 - ②医学教育アンケート、医療倫理向上アンケートの返答状況が報告された。
 - ③明治大学アカデミーコモン展示スペース使用案内が紹介された。
- 以上の詳細は、会議資料参照。

(2) B班（国際シンポ）関連

- ①Till Bastian 氏への確認の手紙の郵送・送信した旨、報告された。
- ②国際シンポジウム日本側の報告骨子案が刈田世話人から示され、出された意見をふまえて修正のうえ、顧問・世話人会構成員に意見を求めることとした。
- ③「日独交流 150 周年」ロゴマーク使用申請書（11. 1. 20 送信）を提出し、認定された。
- ④日野原重明氏の略歴が文書で紹介された。

(3) C班（医療倫理）関連

C班（医療倫理）パネル展示に関する山口責任者からの報告については、パネル展示案検討の前提として、要点が紹介された<上記2の（1）の②参照>。

(4) パネル展示の提案とその審議結果、及び今後の起案課題など

- ①西山代表世話人より「第8回世話人会におけるパネル展示の提案とその審議結果について」の提案があり、パネル案の検討の前提として要点が紹介された<上記2の（1）の②参照>。
- ②「パネルの趣意書」の起案は住江事務局長、「はじめに、時代背景、調査結果」はA班の担当で作業、「宣言案」については西山代表世話人が起案することを確認した。
- ③インタビュー等の同意書(案)、著作物利用承諾書(案) が示されたが、当会にふさわしく様式を再整理することとした。

(5) 国際シンポ・パネル展示のチラシ(案)について

3案の試案から一つに絞り、作成することを確認した。また、チラシ作成費用見積書（3万枚予定）の報告があり、活用枚数を精査して作成することを確認した。

4. 当会への懇談希望、関係団体の動き、新聞報道など

- (1) 酒井旭氏（化学者。731部隊細菌戦の惨劇で懇談希望。根岸英一氏と同期）より当会との懇談の要望があり、2月13日の朝、西山代表世話人と事務局で対応することとした。

以下の項目は、関連資料として紹介があった。

- (2) 防衛大臣宛の史料公開要請書（731・細菌戦部隊の実態を明らかにする会）
- (3) 「陸軍医学校跡地初の発掘調査へ」（朝日、11. 1. 6）
- (4) 「731部隊遺構保存ハルビンで本格化」（毎日、11. 1. 11）
- (5) 「731部隊をあぶり出せ」（ねっとわーく京都、11. 02号）
- (6) 「人体の不思議展」に対する厚労省見解などの動き（産経、11. 1. 19）

以上